

第31号

発行所 大阪市史跡 龍溪禪師墓所
 靈 龜 山 九 島 禪 院
 〒550-0022大阪市西区本田3丁目4-18
 ☎06-6583-2725
 発行人 住 職 奥 田 啓 知 (智證)

大阪にオリピックを!

九条に中華街を!

来年は二十一世紀です!

介護保険に一石

何より必要な家族の温かさ

深刻化する高齢者の介護を社会全体で支えようと、平成九年十二月に成立した介護保険法が来々四月から導入されます。

介護サービスの費用は、四十歳以上の国民から徴収する保険料と公費、サービス利用者の一部負担で賄い、六十五歳以上の高齢者と四十、六十四歳で初期の痴呆症や脳血管障害など十種類の病気にかかっている人が、要介護認定の後、サービスが受けられる事となります。

ただ、介護保険制度をめぐる政府・与党の政策協議の調整が難航し、四月実施までに紆余曲折が予想されますが、今後ますます核家族化や小子化により老夫婦世帯が増え、老人が老人を看護することが予想され結構なことだと言えます。

「市長の代わりはいても、夫の代わりはいない」パーキンソン病が進行して寝たきり状態の妻の介護に専念したいと辞職した高槻市の江村利雄市長(七十歳)は、家族の協力も得て交代で介護をしたが、家族だけの

介護では負担が大き、家の中がピリピリして「はよ死なな」とまで思ったそうです。

一生懸命介護すればするほど憎さ百倍になるもので、そうなる前に、家族ができるのはここまでと決めて、あとは外部のサービスを活用すべきで、六、七割の力でやれば、余裕もできて楽しくできる。介護を受ける者にとっても、その方がずっといいとも主張されています。

仏教では「知恩(ちおん)」という言葉があります。恩返しよりも、「恩を知れ」と教えています。例えば、父母の恩が返りませんが、ただ単純に父母に恩返しをしるとは説いていないのです。恩返しをすればいいのなら、いただいた恩を小さく見積もり、自分が返したものを過大に評価するようになり、子はこれだけ返せば十分だろうと思親のほうはまだまだ十分に返してもらっていないと考え、親子関係がギスギスしてくるから、父母が自分たちに何をしてく



れたか、その恩をしっかりと知るようにと教えているのです。父母が私たちに生命を与え、そして育ててくれた。その苦勞を如実に知ったときに、強制されることなく、私たちは父母に対して感謝の心を持つからです。感謝の心さえあれば、たとえ介護サービスを受けようとも、私たちは間違いなく父母を幸福にできるのです。

養護施設に入っている、家族がしょっちゅう来る方とそうでない方とでは行動が全然違うように、家族の心の介護、言葉の介護こそ必要であるとは、江村市長の言葉です。

物理的な介護は他人にできて、ほめたり、くさしたりして気力のなくなつた病人に活を入れられるのは家族にしかできません、先頃亡くなつた俳優市川右太衛門さんの「老人ホーム死」をみてわかるように。

第六回修養会(報告)

龍溪水定図に末期を偲ぶ

「十一月三日の天長節は晴れる」というお天気俚諺があるそうで、快晴の下、第六回修養会が実施されました。総勢四十五名の参加者一同無事楽しい一日を過ごすことができました。

今回は淡路島の牡丹と南面で名高い黄檗宗国清寺を訪ね住職の直原玉青画伯の龍溪禅師水定図を鑑賞するのが主たる目的の旅です。

中央交通の二階建デラックスバスからの眺めは快適で、明石海峡大橋を渡り、最初の訪問地、北淡震災記念公園にある野鳥断層保存館に到着。兵庫県南部地震に倒れた六千四百人余りのみ霊に哀悼の意を胸に、見学をしました。隣接する被災民家が、当時のままの状態でもモリアルハウスとして保存され一般公開されていた。地震直後の台所は、水屋が倒れて皿が床一面に散乱しており、当時の恐ろしい体験を思い起こしました。

その後、淡路縦貫道を通り南淡町水仙峡途上の「海幸」(料理屋)で昼食。穏やかな海を望みつつ、海鮮料理に舌鼓を打ちました。新鮮な海の幸は修養会では初めてで、すべて地元由良の海でとれたての魚介類でした。

国清寺は、西淡三原インタールより車で五分の田んぼの広がる小高い所にありました。まず開山堂で、参詣者各家先祖代々の供養に、全員で般若心経一卷を回向しました。副住職の濱端青橋和尚さまより楽しい法話をお聞きし、住職で日本南画院理事長、直原玉青師の描かれた襖絵ほか沢山の絵画を鑑賞しつつお寺を拝観しました。

同寺は一切経で有名な鉄眼禅師の高弟勝算和尚が創建した寺で、戦中戦後の混乱で荒放題の寺です。住職と親交のある一条院光子内親王さまのご遺品ほか多くの文化財が収

蔵されています。隣接の西淡路町立玉青館は中国故宮博物院風の近代建築で直原玉青画伯が昭和六十三年に、当院などを取材して描かれた龍溪禅師水定図を見させて頂くことができました。

逆巻く怒濤のなかで泰然として、坐禅を組みながら死を迎えようとする禅師、かたわらにひれ伏す弟子たちの悲壮な姿が力強いタッチで描かれた六面の屏風画の前に、龍溪禅師の生涯を語らせて頂きました。

隠元禅師の語録を通して、人生の師に出会われた禅師がその後の生涯を身命を捧げ、隠元禅師の伝える中国禅で日本臨済禅を改革しようとした上がりながら、孤軍奮闘、その思いを貫徹し、黄檗山萬福寺の開山にこぎ着けられました。当院で大津浪にまわれ非業の最後を遂げられました。末期の一句とも言うべき遺偈に思いのたけを述べられました。

そんな禅師の末期の心境に思いを馳せつつ、ご水定参百参拾年を前に、禅師のご事蹟を偲ぶ旅の最後にふさわしい思い出となる修養会でした。これから続けてまいります是非ご参加下さい。来年は大舟寺、方廣寺を拝塔します



青橋副住職の楽しい法話を聞く(国清寺開山堂にて)

二十一世紀にはいる平成十二年は「開山龍溪禅師御水定三百三十年です！」

年 忌 表 (平成12年)

回 忌	死 亡 年
1 周 忌	平 成 1 1 年
3 回 忌	平 成 1 0 年
7 回 忌	平 成 6 年
13 回 忌	昭 和 6 3 年
17 回 忌	昭 和 5 9 年
25 回 忌	昭 和 5 1 年
33 回 忌	昭 和 4 3 年
50 回 忌	昭 和 2 6 年

※来年度の年忌表をかかげます。お位牌や過去帳などでご確認下さい！尚23回忌・27回忌・37回忌・43回忌・47回忌などは禅宗や当地域では執行しません。

年忌法要は祥月命日前の土曜・祝日曜にされることが多く、他家の法事と重なり、ご希望に添えない事もあります。遅くとも1カ月以上前までに当院まで、日取りと場所などのご希望のご連絡をお願いします。

又、ご法事などに、龍燈会館（椅子席）・本堂をご利用ください。精進落としの料理・酒類なども準備できます

前号でご通知致しましたが境内墓地内の大楠は、空襲の惨禍を今に伝える貴重な戦災史跡と判明しました。小柄の桃山学院高等学校で美術を教えていただいた恩師で版画家として活躍されています清田雄司先生に「甕龍の楠」と命名していただきました。今回、木の下の無縁墓四基を改葬移転し、石畳を敷きつめる等の整備工事をしました

○甕龍の楠整備工事了了



由来を記した記念碑も建てます。来春彼岸法要で除幕、清田先生からご講演を賜るべく計画をすすめています。反響も大きく、十一月十七日には花乃井中学の一学年の生徒たちが、平和教育の一貫として見学に来ます。当日は住職が楠の下で授業をする事となっております。

○第九次訪中団参加

十一月二十三日から二泊三

トルコ大地震に巻万円、台湾大地震に貳万円、山田優美さんを支える支援カンパに巻万円募金させて頂いていただきました。ご報告申し上げます。

○賽銭箱より

日で第九次訪中団に参加し、祖山（中国福建省黄粟山萬福寺）に参ります。宗祖の師匠である費隱通容禪師を祀る費隱亭落成慶讃法要に随喜するためと、当院で計画している「龍溪禪師」ビデオ撮影のためです。住職の友人で「晋山法要記録」「椰子の実和尚」など製作して頂いた中瀬古秀次郎氏も同行されます。

募 財 報 告

この度の龍溪禪師御水定參百參拾年記念事業について現在（十一月五日）の進捗状況をご報告させて頂きます。会計報告は、記念法要（明年六月十一日）終了後、決算のうえ明細をご報告致します。

百二十四名の方より、最高は金百万円を筆頭に、

累計 六百七十七万八千円

の募財が集まっています。

※現下の不況、何かとご出費の多い折に、ご負担をお掛け致しますが、御開山龍溪禪師は日本仏教界にとつて大変な功績を残された高德の禪知識です。当院はその禪師がご水定された霊場でもあります。当院の檀信徒もしくは、ご縁のある皆さまと、当院が一体となり維持されてこそ、九島院が世継が来ます。次の世代に受け継がれます。何卒、春彼岸まで受け付けておりますので、ご協力の程お願いいたします。ご失念の方もありません。再度趣意書をお届けしますが入れ違いの節はご容赦の程を

大阪にオリンピックを！

九条に中華街を！

来年は二十一世紀です！

奉納抄

編集後記

◎誌公帽子 (隠元帽子 法具) 寄進

茨木市在住の某氏より、ご先祖供養にと金貳拾萬円が寄進されました。夏の誌公帽子を新調いたしました。遠忌法要で使用し、収蔵の桐箱にご芳名を墨書し永く伝えます。厚く御礼申し上げます。

がんばれ ● 加油タイガース!

福岡ダイエーホークスが今年の日本シリーズを制しました。南海時代を含めると35年ぶり、球団創設より11年の快挙でした。わが阪神タイガースは恒例の指定席に終わりました。

ペナントレースも終盤となったある日のこと、松島にある某寿司屋で、吉田、中村といった往年の監督や阪神OB六名ほどが、寿司をつまみながら、阪神の6位の成績に怪気炎をあげ祝宴(?)をあげていたそうです。

人気にあぐらをかき、例年最下位に甘んじる球団の体質を変えようと、野村監督を招聘した阪神タイガースですが、一度は首位を奪取したものの、束間の首位も夢のまた夢で、オールスター後の有り様は、人気に溺れ勝てないダメ虎に戻ってしまいました。組織をかえることは、今更ながら大変なことづくしく思いました。

昔、ご開山龍溪禪師は妙心寺を筆頭とする日本臨濟宗を改革しようと、隠元禪師を招聘しましたが、同志にも裏切られ、妙心寺を追放されました。黄檗山を開創したのも束の間、九島院で、台風による大津波の激浪の中に没しました。

今夏来襲した台風18号では、熊本県不知火町松合地区で、海面が盛り上がり、瞬く間に一階部分の高さまで水没し大勢の死亡者をだしましたが、そんな状況だったと思います。

禪師の水定示寂された大津波は、「関山濤」と称され、妙心寺開山の関山慧玄禪師の怒りをかっただめだと喧伝されたといひます。禪師の無念さは推して量るべきです。

サッチー騒動をはじめ、外人選手中途退団騒動や、天国から地獄をみた今シーズン、阪神ファーンにとっては、日本一を目指す野村阪神に生まれ変わるための試練と思われ、来シーズンの活躍を例年のごとく祈りたい。



お知らせ

◎のぼり奉納の募集 1旗金2千円

「南無観世音菩薩のぼり」を入れ替えます。1年間境内に掲げます。昨年同様お施主さんを募集いたします。為書きと施主名を墨書します。ご希望の方は寺務所まで、お声をかけてください。

▼二十一世紀に入る明年、干支は辰年です。ご協力を得て、龍溪禪師ご水定參百參拾年の遠忌事業も順調に進んでいます。▼龍とは空に昇り雲を起し雨を降らせるといふ中国の空想上の動物ですが、易經に「亢龍有悔(亢龍、悔いあり)」という言葉があります。▼亢龍とは昇りつめた龍、栄華の絶頂をきわめた者は、やがていつかは転落する運命。亢龍には必ず後悔があるという意

味です。▼この事業では、禪師の御靈を祀る大本山塔頭萬松院の建て替え協力、空襲で焼失した当院の開山像等の復元制作、龍溪語録の出版など、禪師の法孫として報恩の一端を成しえることができます。▼今回で、小柄悲願の当院復興も名実ともにかないませんが、今後は、平々凡々と凡龍に徹し、布教活動を地道に精進する決意です!

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参の折、郵便為替でも結構です。

二十一世紀にはいる平成十二年は「開山龍溪禪師御水定三百三十年です」